

# ヘリコプター操縦士の養成・確保に関する 関係省庁連絡会議とりまとめについて

---

平成27年9月

国土交通省航空局安全部運航安全課

# ドクターヘリの概要

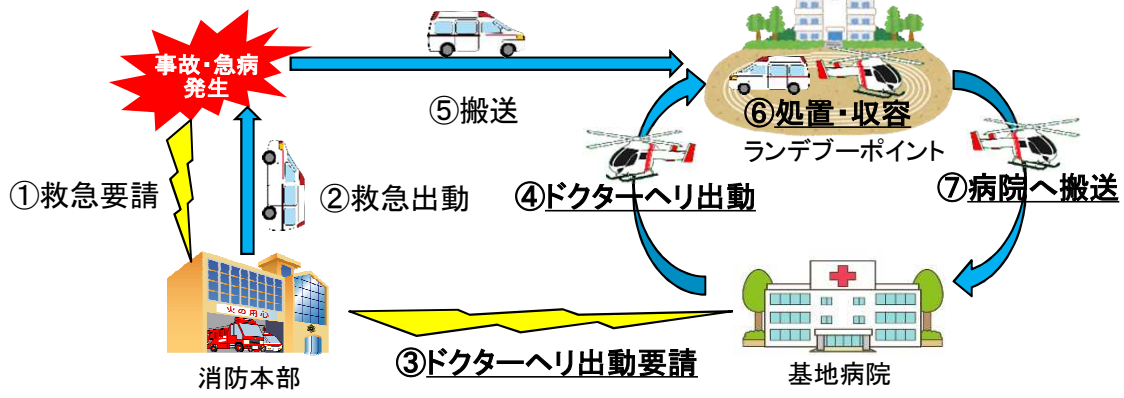
## 概要



### 任務

- ・救急患者の病院への搬送
  - 平時は病院に待機し、事故・急病等発生に伴う出動要請があれば医師や看護師を乗せてランデブーポイントに急行し、必要な処置を施し、患者を収容したのち病院に搬送

### ドクターヘリ出動の流れ



### 運航形態

- ・運航主体は各地の病院等
- ・運航形態は各地の病院から民間事業者への委託

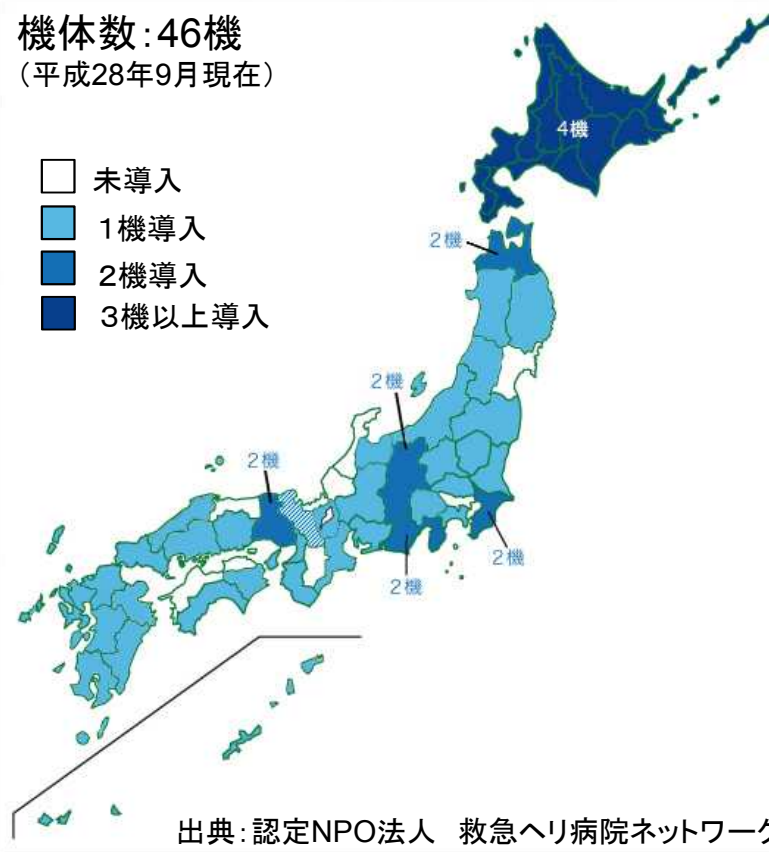
### その他

- ・運航に必要な経費は国(厚労省)及び地方自治体からの補助(1機当たり2.2億円程度)
- ・現時点においてドクターヘリの運航は昼間のみ
- ・操縦士には飛行時間2000時間以上を有していること等の要件(全航連が設定した業界基準)が課されている

## ドクターヘリの配備状況

機体数:46機  
(平成28年9月現在)

- 未導入
- 1機導入
- 2機導入
- 3機以上導入



## 主な使用型式



ユーロコプター式EC135P2型



川崎式BK117C2型

# 消防・防災ヘリコプターの概要

## 概要



## 任務

### ・救助活動

- 山岳遭難、水難事故、高層建物火災等における捜索及び救助(必要な際にはホバリングしたヘリコプターから救助員を降下させて救助)

### ・救急活動

- 僻地での事故・急病等発生時の病院への患者搬送や救急現場への医師・看護師等の搬送

### ・空中消火活動

- 林野火災等における上空からの消火活動

等

## 運航形態

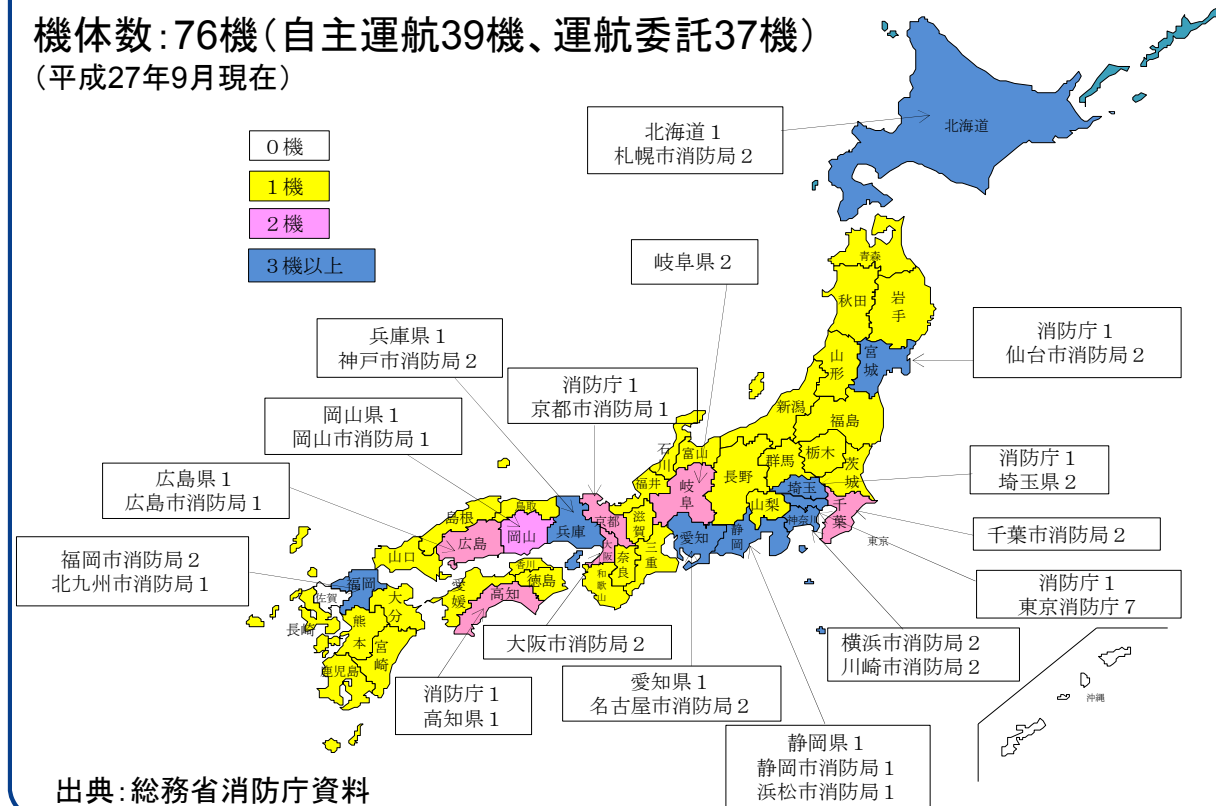
- ・運航主体は地方自治体(都道府県及び市)
- ・運航形態は地方自治体(主に政令指定都市)の自主運航又は地方自治体から民間事業者への運航委託(道県)

## その他

- ・運航体制は24時間運航(参集対応含む)又は昼間のみの運航
- ・自治体毎に異なるが、操縦士の採用及び運航委託の契約には一定の飛行経歴を求めることが一般的

## 消防・防災ヘリの配備状況

機体数:76機(自主運航39機、運航委託37機)  
(平成27年9月現在)



## 主な使用型式



アエロスパシアル式AS365型



ベル式412型

## ヘリコプター操縦士の養成・確保に関する関係省庁連絡会議

### 目的

公共性の高いドクターヘリや消防・防災ヘリ等のヘリコプター操縦士の需要が増大する中で、ヘリコプター操縦士の養成・確保が重要な課題となっており、関係省庁で連携し、ヘリコプター操縦士の養成・確保のあり方について検討を加速する。

### 構成

厚生労働省、総務省(消防庁)、警察庁、防衛省、海上保安庁、国土交通省の関係課室長級(事務局:国土交通省航空局安全部運航安全課)

### 検討課題

- ・ドクターヘリ及び消防・防災ヘリに対応可能な技量・経験のある操縦士の確保  
(特別な訓練プログラムの策定、操縦士のキャリアパス確保等)
- ・若手ヘリコプター操縦士の養成・確保  
(民間養成機関における奨学金制度の充実、裾野拡大に向けた取組等)

### その他

- ・3月26日に第1回を開催し、計5回をこれまでに開催済
- ・7月21日にとりまとめを公表

## 航空機操縦士養成連絡協議会 ヘリコプター部会

### 目的

航空機操縦士養成連絡協議会※の下にヘリコプター部会を設置し、産学官で連携してヘリコプター操縦士の養成・確保に係る具体策の検討を行う。

### 構成

ヘリコプター運航会社、民間養成機関(私立大学、航空専門学校、民間訓練会社)、関係団体((一社)全日本航空事業連合会、(公社)日本航空機操縦士協会等)、関係省庁(国土交通省等)

### その他

- ・5月11日第1回を開催し、これまで3回開催

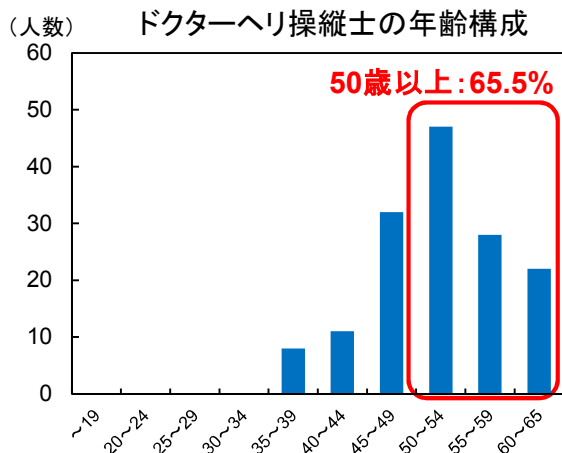
※航空会社の操縦士不足について、航空会社、養成機関等の操縦士養成に係る関係者の連携を促進し、操縦士の供給能力拡充を図るための様々な課題を検討するために昨年8月に設置された協議会であり、航空会社、民間養成機関、関係団体等から構成。

# ヘリコプター操縦士の養成・確保に関する関係省庁連絡会議とりまとめ概要 ヘリコプター操縦士の養成・確保に係る課題

## 1. ドクターヘリ／消防・防災ヘリ操縦士に係る課題

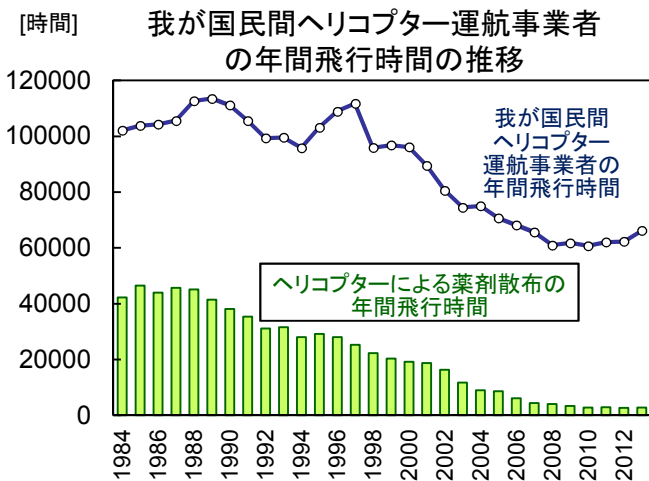
### <ドクターヘリ操縦士>

○ドクターヘリの操縦士に対しては2000時間以上の飛行経歴が求められており、操縦士の高齢化が進んでいる



今後必要な技量・経験のある操縦士の確保が困難に

○一方、若手操縦士が経験を積んでいた農薬散布等の業務が減少



### <消防・防災ヘリ>

○ドクターヘリの場合と同様、一定の飛行経験を求めることが一般的

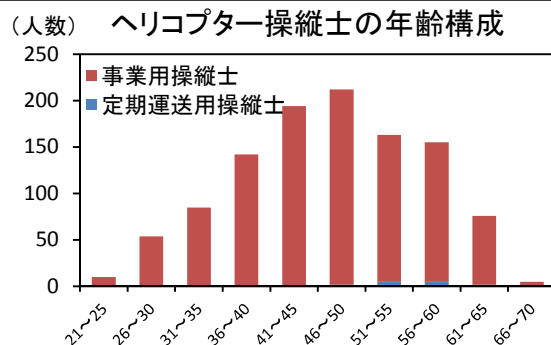
○多くの自治体で操縦士不足を背景として24時間運航体制が確保できていない

○一部の自治体では操縦士不足から運航を制限せざるを得ない事態も発生

**ドクターヘリ・消防防災ヘリに対応可能な技量・経験のあるヘリコプター操縦士の確保が課題**

## 2. ヘリコプター操縦士全体に係る課題

○年齢構成の偏りによる将来の大量退職に伴い、中長期的には若手操縦士の需要が拡大する可能性あり



○高額な学費等により民間養成機関のキャパシティが満たされていない状況

○資格取得者が有する能力と民間事業会社が求める能力との間にミスマッチが存在

既存の民間養成機関の活用が必要

**将来のドクターヘリ、消防・防災ヘリ操縦士候補を含む若手ヘリコプター操縦士の養成・確保が課題**

# ヘリコプター操縦士の養成・確保に係る対策の方向性

民間事業者等と関係省庁で連携しつつ、以下の対策を推進

## 1. ドクターヘリ及び消防・防災ヘリに対応可能な技量・経験のあるヘリコプター操縦士の確保策

### ドクターヘリ及び消防・防災ヘリの操縦士に係る訓練プログラム等の開発

- ・ドクターヘリや消防・防災ヘリの乗務に必要な技量を効果的に付与するための、シミュレータ等を活用した訓練プログラムの策定 等

### ドクターヘリ及び消防・防災ヘリ操縦士の乗務要件見直し

- ・ドクターヘリや消防・防災ヘリの飛行経歴2000時間等の乗務要件(業界標準)の見直し

### ヘリコプター操縦士のキャリアパス確保

- ・効果的に若手操縦士に経験を積ませることのできる業務の割り当て、同乗訓練の実施
- ・新規業務の開拓促進 等

**ドクターヘリ、消防・防災ヘリに対応可能な技量・経験のある操縦士を確保**

### シミュレータの活用

- ・高額な費用を要する訓練の合理化
- ・実機では実施困難な高度な訓練の実施

### 若年定年退職自衛官の活用

- ・50歳代半ばで若年定年退職するヘリコプター操縦士である自衛官の活用方策の検討

## 2. 将来のドクターヘリ・消防・防災ヘリの操縦士候補を含む若手ヘリコプター操縦士の養成・確保策

### 民間養成機関における奨学金制度の充実

- ・一部の事業者等が実施している奨学金制度の拡充等の検討

### ヘリコプター操縦士志望者の裾野拡大に向けた取組

- ・ヘリコプターの活動状況や操縦士の養成機関についての情報提供等

### 民間養成機関における運航者のニーズを満たす養成手法の確立

- ・訓練生の技量レベル向上を図るための養成手法の改善等の検討

既存の民間養成機関を活用